

- 板金資材の品質確保、生産効率の向上
- 廃棄物・ロスを削減し、環境負荷を低減
- 多種多様な顧客ニーズに対応

株式会社北陸瓦販売店

建設業(屋根工事、外壁工事)

多様化する屋根・外壁用の板金資材加工
切断機導入で品質・生産性が向上

補助金で導入した動力切断機

会社の概要

昭和23年に瓦卸業として創業。時代の変化や顧客ニーズに応じて、瓦工事業から外装工事業、太陽光や屋根融雪などの関連事業まで、事業領域を拡大している。平成7年から住宅分野を中心とした総合外装工事として、屋根・外壁に使用する資材の提供から取付け工事までの一貫受注体制を展開している。平成29年度は、年間で屋根工事約2,000件、外壁工事約400件と、県内でもトップクラスの施工実績を持ち、約70人（自社50人、協力業者20人）のスタッフを自

社で組織化した“外装業のプロ集団”としての施工力を誇る。現在、高岡本社が瓦と板金、砺波営業所が板金、立山営業所が瓦工事を担っている。

工事比率は屋根50%、板金40%、資材販売10%（平成29年度）となっており、屋根工事に限って言えば、主力だった瓦部門が減り、瓦4割、板金6割とシフトしてきた。瓦屋根は、平成13年に制定された「瓦屋根標準設計・施工ガイドライン」に早い段階（平成14年）で対応し、耐風・耐震性能の高い施工力と安全性を追求している。屋根に関しては瓦、板金、カラーベスト、軽量新世代屋根

を、外壁に関しては、板金、窯業系サイディング、金属系サイディングなど、多種多様なラインナップの取り揃えが当社の強みである。

補助金事業の内容

富山県における新築住宅着工戸数は減少傾向が続き、建設業者の全体数、従業員数も減っている。しかし、建設業者の中でも屋根工事、板金工事業者は増加傾向にある。県内の板金登録工事業業者数は360社（平成30年10月現在）であるが、そのほとんどは小規模業者であり、業者間で競争が激化している。

住宅の屋根・外壁に使用される板金資材は、寸法、デザイン、色調・材質ともに、年々多様性が求められている。そのため顧客ニーズに対応し、オーダーメイドによる安価で高品質な資材の提供をするとともに、取付け工事まで行う板金工事一貫受注体制の強化、迅速な対応、トータル管理が重要である。

当社はこれまでスリッターと呼ばれる切断機に、手動で材料の鉄板を通していたため、切断しにくい素材の場合、仕上げの際に1mm～1.5mmのズレや歪みがどうしても出ていた。そこでズレや歪みを解消し、より精度を上げるために設備投資を行い、高性能の動力切断機（油圧ギャップシャー）を導入することにした。



屋根・板金工事施工例



補助金事業の成果

平成28年1月に砺波営業所に動力切断機を導入・稼働させ、平成29年12月には量産体制に入った。この機械はゲージの位置決めが自動ででき、シャープな切れ味で切断面のつぶれが無い。また最大4mまで資材を一度で切断できるため、歪みが無くなり高品質な資材加工ができるようになった。

また、裁断と曲げ加工の作業時間を60%削減、廃棄ロスを50%削減し、環境負荷の低減も図ることができた。さらに、これまで熟練工の経験に頼っていた作業を機械化、マニュアル化でき、生産効率も上がったため、人手不足を補うこともできた。受注率も導入後2年間で約20%伸びている。そして製品の精度が上がったことにより、顧客の信用度もさらに高まった。



屋根・板金・雨樋工事施工例

今後の展望

今後は当社の取付工事の受注と小規模板金業者への資材販売の売上高を、5年間で3倍に伸ばす予定である。また、今回の設備投資で十分な成果を得られたため、今後は本社にも動力切断機を導入したいと考えている。近年は新築の外壁工事の受注が伸び、今年度は200件超を見込んでいる。さらに、今後はリフォーム分野にも力を入れていきたい。

「瓦、板金、サイディング」を1社で提供する“外装業の専門家”としての意識を持って、トータル提案、施工・管理、サポートできる企業を目指す。また、瓦葺き・建築板金という伝統のある技術を継承するため職人を育成していくとともに、高い品質要求や環境への対応など社会の変化を意識しながら、地域の人々の安心安全な暮らしを支え、社会に貢献できる企業であり続けたい。



板金資材加工に特化した砺波営業所・工場



導入した機械で切断し、加工を施した軒先水切り